



平成 24 年 6 月 1 日 発行

第 26 号

ながわまち 議会だより

発行 長野県小県郡長和町議会
編集 議会だより編集委員会



大門保育園



マルメロの花

第 26 号 3 月定例会

町長提案理由	P2
平成 24 年度予算関係	P3
議案審議結果	P4
委員会審議内容	P6
一般質問	P10
皆さんへのメッセージ	P18

平成24年3月定例会が開催される

長和町議会3月定例会が3月1日(木)から22日(木)までの22日間の会期で開かれ、条例改正案、平成24年度予算案、平成23年度補正予算案などについて審議が行われました。

町長提案理由の説明



国内経済はデフレや急速

な円高の進行などにより回復は鈍く厳しい状況にあり、この影響から、雇用不安や所得の減少を引き起こしており、社会の閉塞感や将来への不透明感を強めると同時に、企業の業績の悪化や失業率の高止まりなど景気の回復は足踏み状態が続いています。

国は、雇用対策や社会保障制度改革、さらには、政治改革など新成長戦略が示され、地域主権改革等、地方自治体の自主・自立的な行政運営がこれまで以上に求められ、町民生活に直接かかわる地方自治体の政策形成能力が問われる時代を迎えています。

こうした状況の下で、町長就任以来、最初の4年の公約で、旧町村間の融合を目指し、種々の事業を展開してきました。そして2期目には、「Nagawa Next Vision」に公約を掲げ、「耀く長和町の生活圏の基礎づくり」をテーマに、諸事業を実行してい

るところです。

2期目のマニフェスト「ネクストビジョン」を総括してみますと、39項目の事業中、任前半の見込みで、85%を超える33のビジョンが「達成」若しくは「ほぼ達成」となり、「元氣が出る町 長和町」をめざした町民の皆様との約束は、概ね果たすことができているのではないかと考えています。

今後とも、町民の皆様と議論を深め、さらに進展させていかなければならないと考えているところで、まず、東日本大震災の被害の甚大さに鑑み、町の地域防災計画を見直すこととしており、既に、危機管理担当により、検討を進めているところですが、今後の東日本大震災の教訓を踏まえ、県とも連携を図りながら、計画の見直しに向け、鋭意取り組んでゆきます。加えて、学校をはじめとする公共施設の耐震化や防災行政無線の整備、自主防災組織の育

成などにも努め、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてゆきます。

また、時代に即応したまちづくりを進めるため、職員の意識改革が必要で、町民の奉仕者であるということを再認識させながら、徹底したコスト意識を醸成するとともに、地方分権時代にふさわしい職員を育成するための職員研修の充実強化、そして、人事評価制度を、職員の理解を深めつつ、導入をしてゆきたいと考えています。

庁舎建設については、民意をくみ取り「総意のもと」という大前提を踏まえた中で、「蔵」周辺を建設場所と決定させていただいたので、諸事業を進めたいと考えています。また、保育園の統合についても同時に進め、町民の合意が得られれば、庁舎建設より先行させて建設を進めたいと考えています。

また、第2次「長和町集中改革プラン」を策定し、職員給与の適正化、事務事業の統廃合等、行財政改革を断行するとともに、プライマリバランスの黒字確保に配慮し、更なる財政の健全化に努めて

ゆきます。

2期目後半は、残る公約の実現、そして、平成24年度以降、後期五年間のまちづくりの基本方針となる基本計画のスタートの年です。将来像を実現するための諸施策の実現に向けて邁進するとともに、基礎的な社会資本がある程度整備されつつある今、町民の意向を尊重し、町民満足度の高いまちづくりを進め、受け身の行政から、今以上に、町民と行政とが一緒に考え決定し、ともに行動する、より積極的な行政に転換してゆきたいと考えています。

最終的目標として、町民の「だれもが生き生きとした生活を送り、まちの元氣と勢いで、持続していく長和を築きあげてゆく所存です。そして、町民皆様自らがまちづくりの主体として、参加したいという意識の高揚を求めながら、魅力あふれるまちをつくるために、地域の特性を活かし、地域を知り、地域に愛着を持つような町民によるまちづくりを進めてゆきたいと考えています。

(町長提案理由説明より抜粋)

平成24年度
予算

一般会計 52億8000万円
総額 83億4130万円

3月定例会において、平成24年度一般会計及び特別会計予算が審議され、一般会計及び特別会計とも全員賛成により可決されました。

平成24年度長和町会計別予算額一覧表

会計名	24年度予算額	23年度予算額	増減額
一般会計	52億8000万円	53億2000万円	4000万円
国民健康保険特別会計	8億1200万円	8億660万円	5400万円
国民健康保険歯科診療所事業特別会計	2800万円	3700万円	900万円
後期高齢者医療特別会計	7450万円	6740万円	710万円
介護保険特別会計	9億3150万円	9億370万円	2780万円
同和地区住宅新築資金等貸付特別会計	210万円	360万円	150万円
水道特別会計	5億5300万円	5億2900万円	2400万円
特定環境保全公共下水道事業特別会計	5億700万円	5億9300万円	8600万円
簡易排水施設特別会計	1170万円	1280万円	110万円
観光施設事業特別会計	1億4150万円	1億3400万円	750万円
合計	83億4130万円	84億710万円	6580万円

「」は減額を表します。

歳入 主な財源である税収入は、平成24年度税制改革に伴い個人住民税は増額、固定資産の評価替えに伴う減額が見込まれるので町税は6億8434万9000円。町の歳入の半分を占める地方交付税は25億7000万円。

道路改良関係、消防積載車購入、町営住宅建設、水道事業への繰出金に伴う、町の借金である町債は8億8770万円。ケーブルテレビ使用料、生ごみ処理手数料等に1億8917万円など見込んでいます。

歳出 「人口増加対策」及び「子育て支援」関係事業として、町営住宅建設は1億7695万6000円。18歳以下の医療費無料化等を含めた福祉医療費給付は4104万円。妊婦・乳児一般検診は407万1000円。高校通学費補助は1543万2000円。経済危機対策では、住宅リフォームの経費の一部助成を行う、住まい快適促進助成事業は1000万円。また、これから予定している庁舎建設に係る用地購入費に4800万円などを盛り込んだ予算となっています。

3月定例会で審議された議案などの審議結果

報告案（4件）

例月出納検査結果報告について
指定管理委託監査について
議員派遣報告について
平成24年度長和町土地開発公社事業会計の予算について

条例案（11件）

長和町課設置条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町職員定数条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町特別職の職員で常勤のもの等の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町税条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町過疎地域自立促進特別措置法に係る町税の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町公営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町公民館条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
長和町長門黒耀石展示・体験館条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決

平成24年度予算案（11件）

平成24年度長和町一般会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町国民健康保険特別会計（事業勘定）予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町国民健康保険歯科診療所事業特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町後期高齢者医療特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町介護保険特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町同和住宅新築資金等貸付特別会計について	全員賛成・可決
平成24年度長和町水道特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町特定環境保全公共下水道事業特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町簡易排水施設特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町観光施設事業特別会計予算について	全員賛成・可決
平成24年度長和町和田財産区特別会計予算について	全員賛成・可決

補正予算案（10件）

平成23年度長和町一般会計補正予算（第5号）について	全員賛成・可決
平成23年度長和町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第3号）について	全員賛成・可決
平成23年度長和町国民健康保険歯科診療所事業特別会計補正予算（第1号）について	全員賛成・可決
平成23年度長和町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について	全員賛成・可決
平成23年度長和町介護保険特別会計補正予算（第3号）について	全員賛成・可決
平成23年度長和町水道特別会計補正予算（第3号）について	全員賛成・可決

平成 23 年度長和町特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）について	全員賛成・可決
平成 23 年度長和町簡易排水施設特別会計補正予算（第 2 号）について	全員賛成・可決
平成 23 年度長和町観光施設事業特別会計補正予算（第 3 号）について	全員賛成・可決
平成 23 年度長和町和田財産区特別会計補正予算（第 2 号）について	全員賛成・可決
町道廃止・認定案（2 件）	
町道路線の廃止について	全員賛成・可決
町道路線の認定について	全員賛成・可決
議員発議案（1 件）	
長和町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	全員賛成・可決
陳情（3 件）	
義務教育に関わる予算の組み替えを求める陳情	全員賛成・採択
公的年金の改悪に反対する意見書提出を求める陳情	賛成多数・採択
直轄事業の継続と適正な維持管理、地元建設業への支援を求める陳情	全員賛成・採択
意見書（3 件）	
義務教育に関わる予算の組み替えを求める意見書	全員賛成・可決
公的年金 2.5%の引き下げに反対する意見書	賛成多数・可決
直轄事業の継続と維持管理、地元建設業への支援を求める意見書	全員賛成・可決

平成 24 年度一般会計予算案に対する賛成討論



河野啓治議員

税収の減少など厳しい財政運営を強いられている中、町民の要望を取り入れた予算になっていることを評価します。1 つは、23 年度に引き続いて、直接的な雇用対策として、「うつくしの郷サポーター」の予算が組まれました。この事業は町内の環境整備を行って喜ばれています。企業の営業

と従業員の雇用を守るため、融資枠の拡大や利子補給の予算も組まれています。

2 つに、町内の建築関連の緊急経済対策として「住まい快適促進助成事業」（住宅リフォーム助成制度）の予算が組まれたことです。不況で仕事が大きく減った、建築関連業者の仕事起こし、町民の住宅環境整備に役立つものと思います。

3 つに、町営住宅の建設を引き続き行う予算となっています。人口増加対策としても、町営住宅の建設は欠かせません。昨年度も述べましたが、経済対策の観点から建設費が町内で循環できるよう検討を求めます。また、町民の人居希望を優先することも一案として検討してほしいと思います。

4 つに、町内からの要望が大変多い、獣害対策について積極的な予算が盛り込まれていることも評価します。

次に、指摘しておきたい点を述べます。

1 つは、保育園関連の保育園の設計委託料と土地購入費、遺跡発掘調査費の提出は時期尚早だったとして行政の方で取り下げたことは賢明だったと思います。今後、基本計画を教育委員会の責任において策定し、住民の合意を図ることが必要だと指摘しておきます。

2 つは、「立岩和紙」の後継者育成のための予算について、昨年度の予算審議で付帯決議がされ改善を求められましたが、改善の方向がでていません。町と振興公社が本気でこの課題に取り組んでいるか問われています。和紙部門の振興公社の指定管理委託をやめ、教育委員会として、伝統継承の趣旨から文化財としての予算にし、後継者育成に取り組むことも検討すべきではないでしょうか。

3 つめに、再三求めています同和行政での団体補助金などを、なくすことを求めます。

最後に、引き続き大地震の被災者の支援のために全力をあげ、あらゆる努力を傾注することを求め賛成討論とします。

常任委員会審査報告



滝沢総務経済常任委員長

総務経済常任委員会
委員長 / 滝沢 勇夫
副委員長 / 竹内 英和
委員 / 田村 孝浩
河野 啓治
柳澤 貞司
小川 純夫



総務経済常任委員会・社会文教常任委員会が3月9日(金)、12日(月)、13日(火)に行われ、条例・予算などに関する議案について審議が行われました。

平成24年度一般会計予算について

総務課

問 滞納整理機構に委託しているが効果は出ているか。

答 滞納整理機構に移管するといつ予告文章を送るだけで効果があり、250万円の自主納付があり、今まで応じてくれない人も納税する効果もある。

問 大門支所の建て替えについて、財産区で専用する部分は。

答 本年4月より取り壊し工事に入り、一年かけて建て直す予定と聞いている。事務所や書庫、財産区、支所、公民館の部分はありますが、財産区専用の部屋はない。

問 災害対策費について、灯油募金の経過について。

答 11月11日に22万5000

円、2月2日に22万4000円です。現在も継続中ですが、灯油募金は3月末で打ち切り、一般募金として暫らく継続してゆきたい。

企画財政課

問 土地買収(庁舎建設用地)の状況について。

答 地権者7名中6名は、ほぼ了解していただいている。1名は了解を得られていないので、交渉をしている。

問 町営住宅建設について、3棟目は、一本木マンション形式で建てるのか。

答 同じ集合住宅形式にしたいと考えている。

問 情報広報係を課に昇格させるのは、業務に支障があるためか。

答 新庁舎建設に併せて、職員のパソコン利用環境を

見直し職員間の情報の統一、共有化、広報や観光情報など統一し、発信する部署の必要性からです。

建設水道課

問 農林水産業費について、小水力等資源活用調査委託料の内容は。

答 水量等可能性の調査です。

問 除雪重機を使用料での支払いはおかしいのではないか。

答 町内業者と契約し、重機を借り上げているので、



新庁舎建設予定地「蔵」周辺

使用料で支払っている。

産業振興課

問 東京農大活動支援原材料費、支援補助金の使途について。

答 原材料費は芹沢圃場が湿田のため水切り設置経費である。補助金については、学生が年間1600名来町しているが、国の補助金が無くなり、人気もあり参加できない保護者からの苦情電話もくるという経過から、宿泊補助として、年間300名、1人あたり5000円を予定している。

問 商工費について、地域いきいき券の利用状況は。利用促進のキャンペーンを行う必要があると思うがどうか。

答 利用状況は横ばいである。キャンペーンの実施は商工会と協議したい。

問 ふれあいの湯の入浴料金について、やすらぎの湯の改修計画は。

答 ふれあいの湯の入浴料は、露天風呂ができたこと

により、町外者は500円
としたい。やすらぎの湯は
築15年を経過し、福祉風呂
は当時盛土で建築したた
め、地盤沈下により改修工
事が必要である。現在総点
検を実施しているので結果
を踏まえ議会へ報告した
い。

議会事務局

問 議員共済費の減額理由
と金額について。

答 負担率が23年度は100
分の88・5だったが、24
度は100分の57・6に下
がったため、金額にして
801万円の減額である。
算出根拠は給付額、共済会
の残金と照らし合わせ算定
されるので、来年度以降も
変更するものと思われる。

平成24年度特定環境保全
公共下水道事業特別会計
予算について

問 汚泥の運搬回数、経路、
運搬車の所有はどこか。

答 回数は、週2回〜3回
で、業者の車両を使用し、
立科町を通り長門牧場まで



やすらぎの湯

行っている。

問 生ごみの運搬も開始さ
れるので専用道路を空けて
はどうか。

答 大沢線の拡幅改良は厳
しいので、路面改良と待避
所整備を進めてゆきたいと
考えている。

平成24年度観光施設事業
特別会計予算について

問 別荘の移動状況は。

答 23年度の新築はない。
22年度に満期を迎えた方の
実績で、学者村で解約5件
更新31件、美し松で解約4
件、更新12件です。

総務経済常任委員会現地調査報告

平成24年度一般会計予算に計上された、やすらぎの湯施設改修工事費について、
3月16日(金)に現地調査が行われました。

・調査理由

3月議会において、委員会に付託された平成24年度一般会計予算にやすらぎの湯施設改修工事予算として、
525万円が計上された。審議中担当者から福祉風呂の改修工事費であるとの説明後、担当課長から追加説明で
予算計上した後で、振興公社から機器類の老朽化により施設全体的な改修が必要になることから、町として検討
してほしいとの相談があったとの報告がされた。委員より、現地を見ないとわからないとの意見が出され、3月
16日に現地調査を実施した。

・調査、質疑について

現場にて振興公社社長、担当課長から詳細説明を受けた。「平成10年4月開場以来、15年間、施設の改修は
振興公社独自で実施してきたが、地盤沈下による排水管の破損や床暖房、エアコンの不具合、ダクトが酸により
腐食したことにより天井の破損が頻繁に起こる。ボイラーの交換時期も超過し、現在では製造がされていない機
種であり、故障しても対応できないのが現状で、故障修理には、2ヶ月くらいが必要となり、営業を中断する事
態となる。地盤沈下による施設改修、機器類の交換など本格的な改修をお願いしたい。」との状況報告がされ、
質疑を行い福祉風呂の利用状況についてや、経費についての質問に、「福祉風呂は1日5サイクルの利用が可能
であり、1〜2回の利用は、ほぼ毎日あり、他地区に福祉風呂がないため、他町村からの利用も結構ある。」経
費について、「概算1億円かかりそうです。」との説明です。工事の財源についての質問に、「補助金や過疎債は
活用できないようだ。」と説明がありました。

・現地調査の結果について

大規模改修をせざるを得ないという状況であると判断される。

今後は、町より詳細な説明及び再度、現場調査のうえ、補正予算が上程されれば前向きに検討することとした。



栗原社会文教常任委員長

社会文教常任委員会

委員長 / 栗原 暁史
 副委員長 / 長井 武雄
 委員 / 宮下 翼
 古川 直孝
 原田 恵召
 伊藤 博一



平成24年度一般会計予算について
 町民福祉課
 問 住基カードの申請人数、料金、期限は？
 住基カードの宣伝はしているのか。
 答 現在持っている方は58人。23年度の申請者は7名。料金は500円。有効期限は10年。カードの宣伝はしていない。
 問 ソーラー発電の街灯もあるが設置についてはどうか。
 答 ソーラー発電は、曇りや雨天の日が続いたり、パネルに雪が積もったりすると発電量が減るため電力が安定しない。普及するには、もう少し時間がかかる。

年配の方がいそう。生ごみの袋を配り、皆さんにPRしたらどうか。
 答 分別収集のお願いは、4月以降も繰り返し行ってゆきたい。生ごみの袋を配ることに關しては、使い方やPRも兼ねて、検討したい。
 問 子ども手当の未申請者の状況はどうか。
 答 当町は再通知や電話をして、全員に申請を促した。
 問 生活サポートシステム構築事業の進捗状況は。
 答 町の補助金による社協の事業。高齢者等が日常生活で困っている事を、ボランティアをお願いして支援している。ボランティア、利用者の登録が進んできている。実績は買物代行1件、居住内清掃整理整頓8件、ゴミ出し1件、家事2件、庭先草刈り1件。

は包括、要介護と認定された方は居宅介護支援事業所で居宅介護支援を行なう。長和町では要介護と認定された方は、主に依田窪病院と依田窪福祉会の事業所へ依頼をしている。
 問 緊急通報装置について
 設置対象者は誰か。若い人と同じ世帯でも、寝食等別になっている世帯は対象になるのか。
 答 設置の対象は一人暮らしの高齢者世帯、高齢者のみの世帯及び障害者のみの世帯となっているが、ケースに応じて町長の決裁を経て判断することもある。
 装置は、本体又はペンダント型の緊急ボタンを押すと通報センターにつながり、センターで必要に応じ、救急車の出動要請や協力員への連絡等を行なっている。冷蔵庫やトイレのドア等に設置するセンサーがあり、24時間人の動きを感知



緊急通報装置（写真：右）



携帯用ペンダント

しない自動的に通報が入るようになっていく。
 設置件数は70件。
 問 年齢調整死亡率とは。
 答 人口10万人当りの年間死亡率を表すもの。長野県の死亡率が低い理由は、地域の保健活動などで食生活の改善運動や病氣予防に熱心に取り組んでいるからだと思う。
 問 企業センターの仕事の受注状況はどうか。
 答 23年度の加工費は1ヶ月平均102万円、昨年の86万円より延びている。

教育課

問 未満児の入園状況について。

答 昔と異なり、母親の就業にともない未満児の増加が著しく、その対応が不可欠な社会状況と考えられる。

問 長和町教育研究会の委員は何名か。どのような研究をしているのか。

答 委員の人数は30名である。新保育園について、園から理想的な案を出してそれについて意見を聞いた。小中学校については第4回から意見を聞くことになっている。

問 コミュニティスクールについて、長門小、依田窪南部中での取り組みは。

答 長門小学校ではボランティアの台帳づくりを平成24年度から進めていく計画である。南部中については上田市と話をしてこれから協議していきたい。

問 上小図書館ネットワークに入っていないのは長和町の学校だけで、その分図

書購入費を増やしたいと聞いたが、図書司書はいるか。

答 図書館ネットワークは今のところ加入するつもりはない。ふれあい館は入っているが、学校が入ったとしても学校まで本の配達が行かず、ふれあい館までしか来ない。長門小1名、和田小・中1名、南部中1名がいる。

問 歴史館の古文書整理に關して、一般に向けてどのような公開・活用を計画しているか。また、収蔵庫の湿気について、現在の状況は。

答 町と連携事業の協定を結んでいる明治大学の協力を得ながら、長和の里歴史館の事業として進めていくもので、データベース化も考慮したい。現在も、公民館講座の古文書教室や郷土史を学ぶ会の教材資料として提供し、専門講師を介して活用されているが、整理作業の過程で、展示にも反映させていきたい。一般への公開にあたって



長和の郷歴史館 展示室

は、古い資料といえども、現在に關わるような個人的な情報に觸れる場合もあるため、その公開基準や方法を検討してゆきたい。

地階入口へのビニールカーテン設置による外気の遮断や除湿機の導入で資料保管に適切な施設環境を維持できるようにした。

問 グラウンドなどの使用料は、町内と町外の利用者で一律にしてはどうか。スポーツをやる人のマナーという点で、無料はあり得ないと思うがどうか。

答 町内利用者は照明料半額負担のみ。使用料は無料。町外については規定どおり使用料と照明料の負担があり

る。利用者の中に町内外の人が一緒になって利用する可能性はあるが、町内者扱いにするのは、町内者が主であるケースのみである。

町民への福祉と健康増進を一番に考え、今まで通りの規定でやっていく。特に、グラウンドの利用はほとんど町民である。子どもがグラウンドで自転車を乗ったり、キャッチボールをしたりしただけでも使用したことになるってしまう。そういったこともあるので町内の利用者は今までのように無料にしたい。

平成24年度国民健康保険特別会計予算について

問 直営診療施設繰入金とは何か。

答 依田窪病院で医療機器を購入する際に、国から補助金をもらう事業であり、いったん長和町の国保特別会計に入った額を病院へ繰出す。

問 来年度は法定外繰入金が800万円減額されているが、繰入金を一定に抑え

て、国保税を決めるべきではないのか。

答 基本的には一般会計から繰入せずに、国保税で運営していくことが本来の姿である。ただ、被保険者への負担を軽減するために法定外繰入をしているのが現状。

平成24年度介護保険特別会計予算について

問 特別養護老人施設等の施設は足りているか。

答 昨年4月の調査では、重複申し込みを除いた待機者が34人いる。入所したくてもできない方がいる状況を見て、施設が足りているとは考えにくい。一方、国の施策では、今後の方向性として大きな施設を設置するだけではなく、グループホームのように小規模で地域での生活を継続できる施設の設置を進めており、依田窪福祉会からも、こうした施設を増やす重要性は伺っている。

8人の議員が町政を問う 一般質問

古川直孝 議員

森林法改正を機に地下水、湧水保全について

問 24年度森林計画制度の見直しについて、森林整備に必要な林道の新設はあるのか。

答 町長

林道、作業道の新設計画はない。しかし、既設林道等の維持管理の整備は継続して行う。

問 過去の町村時代の未登記の部の進捗状況。長和町において、何筆の未登記があるのか。

答 産業振興課長

役場庁内に未登記物件問題検討委員会を設け検討を進めている。現在、和田地区で、未登記筆数は1400筆。長門地区も64件ほどあり、未登記解消に向け事務処理中である。今後の進め方について、登記所や測量会社に相談をしている。

問 信濃毎日新聞が長野県内の水道水源地について独自に行った調査結果が報じられ、水道水源地の所有や規制状況が明らかになった。生活基盤である水源が法律や条例だけでは守り切れない。長和町における地下水、湧水保全について。

答 町長

地下水や湧水はその地域における自然からの豊かな恵みの象徴であり、未来永劫、これらの自然環境の保全、存続は、この地に暮らすものの責務と考えている。

問 水源付近の山林所有権が、外国資本による森林買収の動きが各地で見られ、森林が本来果たすべき水源涵養機能が失われ、人々の暮らしの安心安全の維持に支障を来す問題が生ずる恐れがある。外資系による山林売買に対してどのように考えているのか。

答 町長

この問題は、1市町村では、条



長久保大沢町有林整備

例の整備をしても限界があり、国に対して可及的速やかに法整備を求めなければならないと思っており、周辺市町村とも連携をして対応策を考えなければいけない。
胃がんについて、早期発見、早期治療（ABC）検診について

問 胃がんで毎年約5万人が亡くなっている。原因は95%ピロリ菌であることが判明し、現在感染率は10代には10%以下に対して、60代以上では80%と言われている。胃がんリスク検診は胃がんになりやすいか診断し、定期的な精密検査を進める。町民が健康に暮らせる施策として新たに成人の日を迎えた皆様に費用を町が全額補助でプレゼントしてはどうか。

40歳から5歳ごとに70歳まで、自己負担2500円で任意検診が受けられないか。胃がんリスク（ABC）検診を制度として導入してはどうか。また、胃がんの原因となるピロリ菌検査を特定検診へ導入できないか。

答 町長

新成人へプレゼントすることは、検査無料券等を発行して、委託医療機関で実施する方法等を検討したい。

ABC検診について、人間ドックの検診に胃力メラを導入しているので、精度の高い検診を提供できていると考えている。

胃力メラを受けたくない方へ実施することにより、ピロリ菌に感染していた場合、除菌治療を実施することで胃がんになる可能性を低くすることができる。

今後、人間ドック、公民館検診への導入は可能と考えている。若い世代から有効性があること、平成24年度から人間ドック業務が依田窪病院へ委託となるので、導入に向け検査結果の伝達方法、金額なども含めて、病院と調整研究をしてゆきたい。

滝沢勇夫 議員

農業政策について

問 農業従事者の高齢化による耕作放棄地が年々増加し、荒廃化が進む町の農業振興は重要な課題であり、T P P 問題や地域農業再生、農地集積など、国の政策を踏まえ、どのように取り組みしていくのか。

答 町長

農業施策は、現在、米戸別所得補償制度が本格実施となり、遊休荒廃地の解消策、再生利用加算や農地の規模拡大加算として集約化へ積極的に推進していくべきものと思っている。

24年度は、集落、地域が抱える人と農地の問題解決のため、地域集落の話し合いによって作成する人・農地プランという計画を策定し、この計画が地域の農業の方向性を決めることとなり、町全体の方向性を決定する重要な年である。

問 耕作放棄地の実態と状況の把握はしているか。また、耕作放棄地の解消に向けた具体的な再生対策は何か。

答 産業振興課長

実態については、町図に色塗りをして地番ごとに管理している。耕作放棄地の解消に向けては、米戸別所得補償制度において補助金が出される制度があるので活用したいと考えている。

ただ、人口の減少、食の多様化、更には農業従事者の高齢化、若手不足など荒廃地化を解消することは、大変厳しい状況下にある。当町において特産品開発によるヒットする生産物があれば荒廃地の解消も容易と考える。

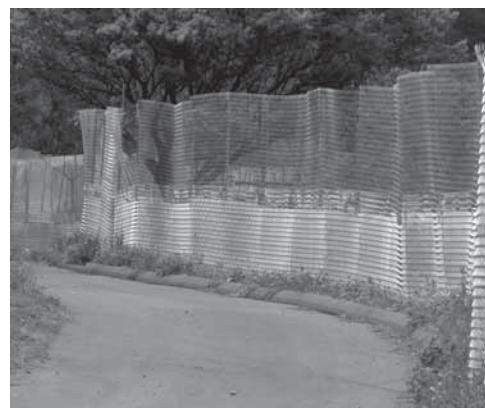
問

獣害防止柵も順調に進み残す地域は、有坂、立岩地区となった。獣害防止柵の進捗状況とこれから実施する武石地区との境界について協議をされているか。

答

産業振興課長

進捗状況は、平成22年度までで27 kmほど施工がされ、23年度は40 kmまで進捗されている。有坂自治会が、信濃鋼材さんという工場があるところまでこの春設置予定である。武石側からは協議の結果、ここの二年の間に藪合自治会が設置を予定しているという話で協議



獣害対策の防護柵

している。ただ、立岩地区なのか有坂地区なのか不明確な場所が、信濃鋼材さんから北側にあると思われる。関係者により調整する予定である。

観光振興事業について

問 第1次長和町長期総合計画も前期が終わり、後期に引き継ぐ観光事業の課題、新年度に取り組みまれる重点課題は何か、課題への取り組みについて。

答 町長

後期計画では、滞在型観光、交流人口の増加を目指す。取り組んでいく事業として観光施設の維持管理、地元産業と一体となった観光事業の推進、それから、歴史施設

設を活用した観光、自然、温泉を生かした観光、健康づくりの一端として自然活用の研究などとしている。

PRについては、パンフレットの増冊、送付、観光宣伝用展示資料、ホームページ、観光業者の宣伝まつり、それから、観光宣伝用DVD利用、特産品の直売事業などを行っているが、行政、観光協会、商工会、さらには振興公社、牧場、そういった情報を一元化してPRをしていくことも非常に大切なことだと思っている。

問

高地トレッキング、クロスカントリーコースなどはそれほどお金もかからないので、将来的に検討をしてみているか。

答 町長

コースが整備されれば、一つの高地トレッキングになるのではないかと考えている。

この姫木、鷹山にスキー場があり、夏場のシーズンに脚力を強化する格好のフィールドではないかと感じているので、管理者との協議ができれば、高地トレッキングとしての活用が可能と考えている。

原田恵召 議員

保育園の統合等について

問 統合の目的は何か、メリットがあるのか。現在のままでも良いのではないか、大門の子供を長門庁舎の裏に建てる統合保育園まで下げなくても良いのではないか。

答 教育長

わかば保育園では、未満児の増加による保育室に余裕がない。また、わかば、大門保育園は30年以上たち老朽化も目立ち、町営住宅建設で益々増えるであろう未満児保育に対応できる保育園が必要だ。

各種設備が整い、安心・安全性が高くなること、規模が大きくなり運動会、お楽しみ会など、運営方法も保護者の思いに近づけることができる等、行政的な面でも保育士等の適正な配置も可能で、維持管理費が削減できる等々のメリットがある。

大門保育園ではバスで姫木から落合まで行きリターンをして通園している状況である。それを考えると、長久保へ建設になるが、通園時間は若干短くなると考えている。

問 延長保育について、4時15分からが延長保育の対象となり、延長保育料の徴収となるが、1時間繰り下げて5時15分から有料という形がとれないか。

答 教育長

午後4時15分からの1時間、当日の子供たちへの反省、保育記録等をつける、職員会議等々を行わなければならない。自治体によっては無料のところもある。子育て支援策の充実に図っていきたくと考えているので検討をしたい。

防災無線について

問 和田地区で発生した交通事故により停電が起きた。経過と対応について、住民への説明、広報があったのか。中電から説明は。

答 町長

大型トラックが電柱に衝突し、鍛冶足から和田峠までの一部電線が断線して停電となった。停電直後、長門、和田庁舎に問い合わせの電話が殺到し、中部電力に電話をしたがつながらない状況だった。10分後やっと電話がつながり、理由と復旧状況が確認され、しばらく

く時間を要するとの連絡と町の有線放送の要請があり、長門庁舎宿直者より、和田地区へ音声放送をしたが、電気の通っている地区にしか聞こえないということで、防災無線での和田地区の一斉放送をした。しばらく後、復旧したと報告を受けた。

問 長門庁舎、和田庁舎から緊急放送ができないのか。マニュアルをつくっておけば、対応することができたのではないか。

答 総務課長

放送ができる施設は、長門、和田庁舎、依田窪南部消防署、情報館の4カ所で総務課危機管理係が操作し放送することになっている。マニュアルはあるが、防災無線



防災無線システム

の運用は免許が必要と法律に定められ、無免許での使用はできない。役場内の免許所有者は4名いる。

中学校での柔道必修化について

問 週に何時間あるのか、何年生がやるのか、男女ともにやるのか。今現在の南部中学校、和田中学校それぞれどう考えているのか。

答 教育長

教えられる技量がないと非常に危険で先生の対応はできているか。素人に技をかけるのは危険ではないか。有段者に特別に講師をお願いするとか、受け身だけにするとか事故が起きないようにしてもらいたい。

南部中学校、和田中学校とも剣道を選び、南部中学校では、新2年生が年間12時間、和田中学校では、全学年が8時間、両校とも男女が実施をしている。先生の対応は、南部中学校には、先生が2人、和田中学校では先生が1人いる。

県のスポーツ課により年4回研修会等があり、積極的に先生方にも参加をしてもらい、安全な指導ができるよう努めたい。

栗原暁史 議員

震災から1年が経つにあたって

問 被災地の復興状況は。

答 町長

国の動きが非常に鈍く、やっと復興庁が発足した。余りにも遅い。しかし、これでスピード感を持った復興ができると思う。山間地等では、いまだに瓦礫が片づいていないが、少しずつとは言え改善されてきていると感じる。

問 町として今後活かすべき点について。

答 町長

専門家も交えた防災訓練の実施と体制強化、そこから浮かび上がる行政上の課題の検討、行政データの二重保存、国レベルでの防災・地震予知システムの強化、原発のあり方についての再検討と原発事故を想定した防災計画の見直しなどの必要性を学んだ。

問 公務労働の大切さなどの点から職員・町民に理解してもらいたい

ことについて。

答 町長

職員は、災害時には家族を犠牲にしても、町民のために災害対策本部へ参画する。今回の震災で、職員の子どもが大怪我をしても配偶者を亡くしても、災害対策本部で頑張ってきたという報道を見て本当に心が痛んだ。

職員には、「この町を守る義務がある。住民と協力して災害を復興していくんだ」という考え方を常に持つて職務につくよう、さらに指導を強める。大災害時には、行政組織が麻痺することも考えられ、町民の皆さんにも、職員と力を合わせて取り組んでいただきたい。

問 瓦礫受け入れなども含めた今後の被災地支援について。

答 町長

他市町村や県の動向を見つつ、災害対策支援本部で検討する。ボランティアについても町社協と現地ボランティア団体と協議していく。瓦礫受け入れは、安全性の担保が何より必要だ。広域連合で相談したい。

問 昨年6月議会で提起した防災計画見直しの進捗状況について。

答 町長

防災計画の「自分の命は自分で守るという認識のもと」という部分は、弱者に配慮した表現にする。防災・復興計画の基本には、地域コミュニティを生かすことの重要性を反映させる。

新潟県の刈羽原発、静岡県の浜岡原発の緊急事態を想定した原子力災害対策の見直しを行う。高齢、重病、障がい者対応の項を設けるかは、福祉の担当と相談する。

庁舎建設について

問 今後の手順について、古町支所の存続について、住民の意見を聞くことについて。

答 町長

当面は基本計画案について議論をして方向性を出したい。保育園建て替え問題もある。まとまれば保育園の建設が先であり、庁舎建設は1年先延ばしにする。合併特別債事業は、5年間延長が推測され、庁舎建設等は平成26、27年度

と考えている。

課の統合案の変更予定はないが、古町財産区議長、自治会長会長の要望もあり、今後、検討する必要がある。

建設委員会としての計画案ができて、上がれば、ホームページ等を使って、広く町民の意見を募集したい。

保育行政について

問 保育士は、過半数が臨時採用になつている。子ども達の命を守り、成長に大きな役割を担う保育士は、正規採用にして、安定した身分で、落ち着いて保育に当たれる環境を整えるべきではないか。少なくとも、今以上の処遇の改善を求める。

答 町長

全員正規職員で雇うのは理想だが、職員の配置については、未満児、発達障害児の増減により変更せざるを得ないため、臨時職の比率が高くなつている。昨年4月より、大規模な給料の増額及び賞与の支給等大幅に待遇改善した。

伊藤博一 議員

長和の里歴史館の運営展開について

問 町の観光名所の1つの施設として、町の歴史文化施設としてPR広報展開及び展示場の拡大や保管品などの扱いを含めた運営のあり方について。

答 教育長

歴史館の第一の目的は、町内各所に所在する歴史的資料を一括収蔵し、体系的な保存管理を行い、町内博物館、資料館施設のバックヤードとなる施設と位置づけ収蔵保管しているため、一般公開をしている常設の展示室は広くはないけれども、収蔵資料の中から時代別に特色あるものを選択して、展示公開を行っているがもう少し資料等の整理が進んできたら見学しやすくしたいと考えている。

昨年度、秋から希望があれば公開をしてきたが、本格的には24年度から施設公開していきたい。

問 県の無形文化財の指定を受けているおたや祭りの山車の写真を歴史館の中には飾ってはどうか。

答 教育長

山車保存会で保管をしている、おたや祭りの歴代の山車写真は、24年度から3カ年の計画で、劣化したものの修正作業を行い保存会別、年代別等に選択して、収蔵スペースの中で展示できればと思っている。

通学道路円通寺線拡幅歩道設置の件について

問 円通寺線は長門小学校の指定通学道路であるが、道幅も狭く、区分された歩道もなく危険な状態であり、道路改良事業が検討されているが進捗状況は。

答 町長

児童の通学路が歩道もなく危険な状況なのは、早急に改善していかねければならないと考えていることから、歩道の設置について優先で事業に当たるよう指示をしている。

答 建設水道課長

計画をしているのは、円通寺線で歩道が未設置の区間で北古屋の住宅地区内を除く部分、延長300m余りに歩道の設置をし、住宅地

区内を除く箇所、全線歩道をつなげる予定で、それに伴う道路改良を若干する予定である。

工事は、農作業が終了する10月ごろから着工し、今年度中に竣工をする予定である。

水道水の有効利用と維持費削減に向けて

問 和田地区の上水道の漏水による送水管の敷設替え工事が順調に推移していると思うが、進捗状況と効果について。

答 町長

今年度末までの事業の進捗状況は、敷設延長で65%、11・3kmほどになる予定で順調に推移をしていると考えている。

事業の効果は、この工事の結果、1日当たり400トン、概ね25mプールの1杯分の漏水が解消されている。

問 大門の水源から古町地区へ送水している水道水を長久保地区に送水を切り代えてはどうか。長久保一丁田地籍の深井戸ポンプが不要となれば、維持管理費の削減になると思うが考えは。

和田地区の改良事業が終了した後、問題点等も考慮しながら、町全体の効率的な配水方法について、改めて判断をしていきたいと考えている。

答 町長

入大門の水源の利用については、合併を機に、平成20年度から古町地区へ送水をしている。これによつて一丁田深井戸ポンプの電気料削減に大きな効果があった。従つて、大門の水を長久保に送水することも、維持管理費の面で大きな効果が期待できると考えられる。しかし、大門の水を長久保に送水するには、専用の送水管を約3・5km敷設するなど概算の事業費がおよそ2億5000万円かかる。

和田地区の改良事業が終了した後、問題点等も考慮しながら、町全体の効率的な配水方法について、改めて判断をしていきたいと考えている。



町道円通寺線

長井武雄 議員

人口減少にもなう空屋の増加と活用について

問 長和町の空き家の状況はどうなっているのか。行政でもホームページを使い紹介をしているが状況はどうか。

今後の空き家の増加について行政の判断はどのように考えるか。

答 町長

把握している空き家の数は43戸。入居が難しいものが12戸あり、2戸は昨年ホームページで提供したもので、残りの29戸であるが、13戸が持ち主等の連絡先が不明である。残り16戸も、家の中に家財道具が詰まっており、貸し付け等については考えていないのが現状である。それでも、販売や貸し付け希望のお宅等については、ホームページに記載し情報として提供をさせてもらっている。

現在の社会環境等を見ると、独居老人及び老々世帯が増加方向にあると考えると、空き家が増えるとの推測をされ、空き家の情報をしっかり把握し活用していくかが、大きな課題だと思っている。

問

人口増加、地域のコミュニティを維持するために空き家の利用はできないか。

今後、積極的に例えば、行政のお金を使って積極的に先ほどのような家財道具を片づけるとか、持ち主との交渉を進めるつもりがあるのか

答 町長

空き家対策は、リフォームや家財道具を整理する費用に町費を使うという方法もある。

ただ、マンションの場合には、大体5倍、3倍の申し込みがあり、建てれば、大体入ってもらえるということがあるが、空き家はお金はかけたが、入る方がいないと、無駄なお金をかけたことになり、考えながら対策していかなければならぬと思っている。

確かに、地域のコミュニティというのには、いわゆる末端区で、この区が存続できないというような区も、これから出てくる可能性もあるわけで、この空き家についての対策というものは、今後、しっかりとした考えの中で対応していかなければならないと思っている。

水資源保全対策について

問

外国資本による森林買収が報道されている。北海道のニセコ町では、町の水源そのものが取得対象となったという例もある。水源地の買収によって、水道の供給が確保できなくなる可能性もある。

長和町の水源地は何力所あるのか。そしてまた、それは所有者がだれか。

答 町長

長和町で使用中的の水源地は22箇所、それから予備水源地として4箇所あるが、予備水源地の箇所も含めた水源地周辺の外国等の資本買収を、阻止する対応を考えていかねばならないと思っている。

答

建設水道課長
水源地は、全部で26箇所あり、所有者の状況は、町有地が3箇所ある。財産区が11箇所、区及び自治会所有が2箇所、国有地が4箇所、民有地が6箇所である。

問

国の法整備、また条例の作成しまでの間、各財産区も含め、すべての水道の水源地にかかわっている方に対して、文書で通知を出し

てもらいたいと思うが。

答 町長

細かく調査しなければいけないけれども、将来、長和町の水道の確保ということで、必要となれば、この6箇所は町でやっぱり所有するということも含めて、考えなければならぬと思っている。

当面、民有地の6箇所については文書で、お願いをしていくという対応をしたい。



黒耀の水（男女倉）

河野啓治 議員

学校給食の食材の放射能検査について

問 町内の空気中、土壌、農産物などの放射性物質の測定はどのように行われているか。結果は安全なものか。

答 町長

空気中の測定は、長門、和田両庁舎で毎日、職員が地上1mの高さで、約1分間の平均数値を測定している。結果は問題になる数値ではない。
土壌や農産物、食品類は測定していない。

問 学校食材の放射性物質検査はどのように行われているか。

答 教育長

県教育委員会各学校、給食センター等々のサンプルの検査を実施している。来年度からは各教育事務所にこの検査の機器が整備される。町独自では実施をしていない。

問 食材の放射性物質検査をリアル



放射能測定

タイムで行う体制をとることが必要。機材の購入や人材の育成について。

答 教育長

長野県下で相当数のサンプルを毎月検査している。安全性については、「大丈夫」という見解を持っている。機材の購入、人材の育成等は考えていない。

住宅リフォーム制度について

問 現在までの申し込み件数及び受理件数、総事業費と補助金の額は。

答 町長

現在までの申込件数は5件。受理件数も5件、総事業費は624万5588円で、補助金額は72万円となっている。

問 この事業を行った人たちの感想、行政としての検証、評価について。

答 町長

申込者も少ない状況である。この機会に住宅所有者は住まいのグレードアップを図ってもらいたいと思っている。

農水省の「わが国の食と農林漁業のための基本方針・行動計画」の取り組みについて

問 23年度から始まった畑作物への数量払いや各種加算処置を含めた農業者個別所得補償制度の実績と評価と、改善すべきことについて。

答 町長

畑作物の所得補償交付金は営農継続払いでは24人が対象となった。数量払いでは74人が対象となった。金額は、現段階で1172万円。水田活用の所得補償交付金では123人で、面積、金額は算定中である。米の所得補償交付金では84人が対象となりこれも算定中である。
加算処置は、再生利用加算が1件、面積は1.2ヘクタール、金額

は23万4000円で、規模拡大加算は、7件で面積、金額とも出していない。

評価は、日本の農業の方向が、農地の集積によって大規模農業化を打ち出していることだと思っている。各種加算処置制度により、荒廃地化を防ぐ一環となったことなど、改善すべき点は、制度を理解していない方に、理解してもらう啓発をすることが挙げられる。

問

農水省の新プランでは、農地の集積を図るために、今度は貸し手にも交付金を出すようにしている。しかし交付を受けようとすれば農業機械、トラクター、田植え機、コンバインの廃棄処分が義務付けられる。長和町で見れば、現在の稲作農家660戸が、45戸に集約される計画だ。これについてどう思うか。

答 町長

農政というのは大変難しい問題だ。今までもいろいろな施策をしてきた。そういった中で今回、こういった政策が打ち出されている。私は必ずしも米農家をなくしてしまえというような考えでやっているのではないと思っている。

宮下 翼 議員

平成24年度予算編成方針等について

問 予算編成の基本方針は、どのような事項を重点事項ないし優先事項としたか。

答 町長

「輝く長和町の生活圏の基礎づくり」を基本方針として、人口増加対策、子育て支援、経済危機対策に重点を置いた。

問

予算全体への目配りの指針や編成への思い等十分な説明を。

答 町長

優先的に配分したことは、1番目は、町民の声が町政に反映する仕組みづくりなど新たな町づくり事業、2番目は旧町村間の行政サービスとの格差是正に向けた事業、3番目は町民1人1人が生活のあらゆる場面で、安心して暮らすことのできる環境を整える事業、4番目は少子高齢化社会の中で、健康安全、安心の町に寄与する事業、5番目は地域の活性化を促進させる事業について優先的に予算配分

をするよう心がけた。

問 国家公務員の給与減額に伴う地方公務員給与への波及の問題について町の見解を。

答 町長

地方公務員給与は、平成17年度の人事院勧告により既に削減が進んでいる。人件費の抑制ができていないのは国家公務員と国会議員であると思うので、国と合わせて抑制することは考えていないが、全国町村会や県の対応等も参考に決めていきたいと考えている。

問

重点対策の3番目は、「経済対策」なり「産業振興」とし、予算を厚くすべき。青木村、立科町と比べて、この分野の予算の割合が低い。

答 町長

提言は参考にさせてもらう。

観光促進事業について

問

分水嶺トレイル事業の成果と今後に向けての課題をどう考えるか。また、平成24年度の事業計画は。

答

産業振興課長
23年度は総延長38kmで5区間、踏破ツアーを5回行い延べ1200人が参加した。年齢別では60代が一番多く次いで50代、若い参加者は少ない状況で、町内の参加者は25%だった。参加者のうち、宿泊者は10%ほどで少なかったと感じている。このトレイルは、ガイドが必要でガイドの育成も必要だと思っている。さまざまなツアーを組んでPRし、参加者の増を図る必要がある。24年度は適する時期に適する場所を、例えば、モミジの時期はモミジのいい場所を設定してツアーを組むなど、また、踏破した方には賞なども出すようなことを考えている。

地域経済に貢献できる大会にした。24年度は8月25日に予定している。60kmコースと前年なみのコースと2つ設定し参加者の増を考えている。

問

ウイスキーフェスティバルは、他の事業と全く違う層のお客様をねらえる点が魅力である。平成24年度は50万円の予算づけがあるので、昨年の事業成果を含めて、新年度の事業計画を。

元氣ニコニコ券事業の成果について。また、新年度については予算づけがされていない理由は。

答

産業振興課長

ウイスキーフェスティバルについて、全く違った客層が来たというようなことで成果があったと考えている。鷹山地区においては、昨年新たに民間が起こした「たかやま高原祭」、「黒耀石のふるさと祭り」というイベントも例年開催されている。これらと合同でできないか検討をしている。

ニコニコ券事業は、緊急支援的な事業で、一過性の事業であったので、来年度は行わないと考えている。

答

産業振興課長

参加者数を500人くらいと想定していたところ529人という状況で盛況であった。ただ、町内でイベント開催が知られてなく周知不足であった。町全体のイベントにし、



左から：小川議長、小池さん、羽田町長

故小池和典さんやすのり旭日単光章きよくじつたんこうしょうを受章

長久保（2区）の故小池和典さんが、「旭日単光章」を受章され、長男の小池正徳さんに3月6日（火）和田庁舎議場において、羽田町長から表彰状と勲章が伝達されました。

故小池和典さんは、旧長門町議会議長を務めるなど、長年地方自治にご尽力されたことによる受章です。

傍聴席から

3月定例議会を傍聴された方に、感想を書かせていただきました。

議員、応答者とも課題について深く現状把握し、解決に導こうとしている努力が伺える。

小・中学生による議会を提案します。将来を担う子供たちの考え、ふるさと意識の向上など意義は大きい。

テレビ放映、広報等でも見られます。でも当事者の顔を見ながら聞くと親密感が感じ取れる。

自分たちが選出議員ですので多くの人傍聴することで、議員も張り合いが出ると思う。

（感想、意見抜粋）



これらの意見を参考にさせていただき、より良い議会にしていきたいと思えます。

住所、氏名を記入するだけで、本会議をいつでも傍聴することができますので、ぜひ和田庁舎議場へお出かけください。

ながわまち議会だより 編集委員会

委員長 伊藤 博一
委員 田村 孝浩
宮下 翼
竹内 英和
原田 恵召

子ども達の知的成長にとっても、好奇心は大切なものです。「不思議なことが分かる」というのは、嬉しいことであり次への意欲もかき立てます。

しかし、今の子ども達は、ドキドキするような自然の不思議をあまり実感できていないのではないのでしょうか？子ども達の成長のために長和町にある豊かな自然をどう活かせば良いのか、みんなで考えていきたいものです。

「子どもの成長のために」と若夫婦が他所から引越してくるワクワクする町にしたいものですね。

町の皆さんへの メッセージ

各議員が、日頃思っていることや住民の皆さんへのメッセージを書いています。今回は栗原暁史議員です。

みなさんは金環日食をご覧になりましたか？日食の原理は分かっていますか？も、とっても神秘的でした。昔の人は予告なく起こる怪奇現象に驚き恐れたことでしょうか。

「この世は不思議であふれている」と改めて思います。その不思議を一つ一つ解き明かして自らのものが人類の歴史であり、「好奇心が人類を作ってきた」と言えるのかもしれない。